

平成26年度活動報告書(1/2)

学部・委員会名	教学検討委員会
学部長・委員長等氏名	夏秋 啓子
担当所管	学務部教務課
テーマ	教学関係事項への迅速な対応

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>年間授業計画の作成については、平成26年度の年間授業計画の問題点を検証し、学生主体の計画を作成する。また、授業時間割についても問題点を検証し、教育の質向上につながる時間割の作成に努める。</p> <p>旧カリから新カリへの移行について、スムーズな移行を遂行する。</p> <p>シラバスの内容に不十分などがあるため、内容を精査し、学生に分かりやすいシラバスを作成する。</p> <p>教養教育及び語学教育について現状を把握し、今後の方向性を確認する。</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>年間授業計画について7月までに問題点を洗い出し、8月から原案を作成し、10月の教授会で承認を得るように進める。時間割についても例年通り、6月から準備を進め2月中旬の完成を目指す。</p> <p>新カリへの移行については、振替科目及び補講科目の確認を事前に行い、旧カリ学生の履修をスムーズに行う。</p> <p>シラバスについては、新シラバスシステムが26年4月より稼働するため、現行シラバスを移行し、5月以降に新シラバスの内容を精査し、シラバス検討委員会（仮称）に置いて審議したうえで、不足部分については再度入力期間を設けて、追加記入を依頼する。</p> <p>教養教育及び語学教育の在り方について、各学部・学科及び担当教員を交えて検討会を実施する。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>年間授業計画及び時間割の作成。</p> <p>旧カリキュラムの振替表の作成。</p> <p>Webシラバス及び冊子によるシラバスの完成とシラバス検討委員会（仮称）の開催。</p> <p>教養教育及び語学教育に関する委員会での検討。</p>
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>年間授業計画については、重要な大学行事であるキャンパス見学会及び一般入試を優先し、大学設置基準に従い、半期15週を確保することを念頭において編成し、その結果、最適な年間授業計画を作成した。時間割については学部・学科の要望を優先し、学生の受講しやすさに配慮することにより、最適な時間割編成を行った。</p> <p>旧カリキュラムの振替表についても旧カリキュラムの学生に分かりやすい振替表を作成し、旧カリキュラムの学生の履修手続き他がスムーズに行われている。</p> <p>シラバスについては、冊子のシラバスとWEBによるシラバスを作成し、前学期の途中で、教学検討委員会から授業担当者に対してシラバスの内容を充実させるために、シラバスの確認・修正を依頼することで、シラバスの充実成果を上げることが出来た。</p>

英語担当者による「英語教育に関する打合せ」を今年度2回開催し、英語教育に関する問題点や改善点を提案していただくことで、農大の英語教育の方向性を今後も継続して検討することとなった。

■評価（5～1で記載してください）

4 計画に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

5. 課題及び改善事項

年間授業計画については、半期15週を確保するために祝日を授業日にしている回数が多くなっているのは大きな課題である。夏季、冬季及び春季休暇、土曜日の授業実施、追試及び成績相談日の見直し等の検討が必要である。

平成29年度にはカリキュラム改訂が予定されており、カリキュラム改訂に関する基本方針を早急に検討しなければならない。

シラバスの内容を充実させるため、教学検討委員会を中心に、全学的な取り組みが今後必要である。

教養教育及び英語教育についても各学部及び英語担当者による検討が実施されており、平成29年度のカリキュラム改訂に向けて準備を計画的に進めなければならない。

6. 平成27年度への継続の有無

年間授業計画及び時間割の作成は、通常の業務として教務課で対応していくこととするため27年度は継続しない。

旧カリから新カリへのカリキュラム移行についても、教務課の業務として対応をしていくため、次年度の活動計画としては継続しない。

シラバスの充実については教育の質的転換に向けた改革の実行として継続して取り組むこととする。

教養教育及び語学教育については、平成29年度のカリキュラム改訂に向けて迅速に対応が必要となるため継続して取り組むこととする。

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書(2/2)

学部・委員会名	教学検討委員会
学部長・委員長等氏名	夏秋 啓子
担当所管	学務部教務課
テーマ	F D活動への積極的な取り組み

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<ul style="list-style-type: none"> ① 基準協会からの指摘事項である、本学の各学部・学科の3つの方針を策定し、広く社会に公表する。 ② 本学の教育の質の向上を図るため学生の学習時間の実態や学修行動の把握のためのアンケート調査などを実施し、組織的に行う。 ③ 本学ではF Dの定義が明確になっていないため、どのような内容でF Dを進めるのか学内で検討し計画的に活動を進める。 ④ 学生による授業評価の実施率を向上させるとともに、全学で授業評価結果を集計し、授業改善を図るための組織的な取り組みを構築する。
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<ul style="list-style-type: none"> ① 平成26年度までに学部・学科の3つの方針を確定し、26年度からHP、各種印刷物等で広く社会に公表する。 ② 平成26年度前学期に学生への学習時間を把握するためのアンケート項目、実施学年、実施方法等について検討し、前学期末にアンケート調査を実施する。実施結果を集計し、調査結果を分析する。 ③ 本学ではどのようにF Dを推進していくのか、短期的、中期的、長期的な計画を作成する。 ④ 学生による授業評価の実施率向上のための取り組みを検討し、前学期の授業評価に反映させる。授業評価を学生に公開することを、全学的に意思決定し、評価結果を冊子にまとめ学生に公開する。
3. 達成度を判断するための指標
<ul style="list-style-type: none"> ① 3つのポリシーの完成と一般公開。 ② アンケート調査の実施及び結果分析。 ③ 本学のF D定義の確立。 ④ 授業評価結果の活用。
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>東京農業大学ホームページにより、3つのポリシーの公開を行った。</p> <p>学習時間に関するアンケート調査を実施し、学科ごとに集計し結果を各学科に報告した。</p> <p>F D活動については、教学検討委員会の下にF D向上委員会を設置し、ワーキンググループに分かれて具体的な活動を行った。委員の協力により、積極的な取り組みが行われている。</p> <p>授業評価の結果活用について、授業担当者からのアンケート調査を行い、結果を集計し、今後の参考として優れた取組みについて紹介した。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>3 目標に基づいて活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。</p>

5. 課題及び改善事項

3つのポリシーについては全学部・学科で作成し、ホームページで公開したが、今後、継続して3つのポリシーの検証を行い、見直しする必要がある。

学習時間に関するアンケート調査を実施したが、試験的なものであり、分析が不十分で結果が活用できていないため、実施方法やアンケート項目を見直し、継続的に実施することで、学生の学修状況の変化を把握する必要がある。

全学的なFD活動としては、ハラスメント防止講座やメンタルヘルス対策講座、公的資金の適正取扱いに関する説明会を開催し、教員の資質向上に努めている。また、若手・中堅教員が中心のFD向上委員会を設置し、FDの意義や本学が取り組むべきFD活動について具体的な検討を開始し、一部は試験的に実施しているが、全学的なFD活動としてはまだまだ不十分であり、次年度は本年度以上の取組が必要である。

授業評価の結果活用に関する調査は行ったが、授業評価の結果を使って教員の顕彰や授業改善のための取組みは行っていない。次年度は授業評価の充実と評価結果の活用に力を入れなければならない。

6. 平成27年度への継続の有無

3つのポリシーを検証し、平成29年度のカリキュラム改訂に活かしていく必要がある。

学生の学修時間、学習成果の把握は、今後も継続して取り組んでいかなければならない。

全学的なFD活動は教学検討委員会を中心に一層の充実を図る必要がある。

授業評価は、現状のWEBによる評価から、マークシートによる評価に変更し、信頼度の高い評価を目指すとともに、授業評価を活用した組織的な取り組み（表彰、授業改善など）を行っていく。

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。